

日米共同訓練の規模縮小を求めるとともに、
オスプレイの参加に反対する事務局長談話

8月10日から、北海道の3つの演習場で、3千人もの米海兵隊、自衛隊が参加する大がかりな日米共同訓練が行われている。

この共同訓練には、初日から米軍の新型輸送機「オスプレイ」が参加する予定にあった。しかし、オーストラリアでの墜落事故などにより、日本政府、そして北海道を始め札幌市や千歳市などの演習地の自治体や、労働組合・市民団体など、多くの道民が飛行自粛を求め、これまで参加は見送られてきた。

しかし昨日、防衛省より、18日から、米軍の新型輸送機「オスプレイ」が日米共同訓練に参加することが発表された。

多くの道民の声を無視し、米軍の新型輸送機「オスプレイ」が、演習場にとどまらず、道内を広範囲に飛行する。

私たちは3千人もの米海兵隊、自衛隊が参加する、大がかりな日米共同訓練には反対する。そして、開発段階から墜落事故を繰り返し、昨年12月も、つい一昨日にも、墜落・死者を出した、新型輸送機「オスプレイ」の参加に強く反対する。

日米の約3千人が参加し、国境に接する北海道で、オスプレイが広域的に飛行して行く、大がかりな日米共同訓練は、隣国を刺激し、北方領土問題の解決という、私たち、国民・道民の悲願を大きく後退させる。

昼夜を問わず、時には低空で飛行するオスプレイの騒音は甚だしく、平穏な日常生活に、そして酪農や畜産業にも多大な被害をもたらす。まして、ひとたび墜落事故が起これば、道民の生命と財産が犠牲となる。

私たちは、日米共同訓練の縮小を求める。そして「オスプレイ」の参加に、強く強く反対する。

2017年8月16日

日本労働組合総連合会北海道連合会
事務局長 杉山 元